

2～3ページ▶

野鳥の四季

～相模原市で出会える野鳥たち

渡部 尚久氏

4ページ▶

市内の動植物を訪ねて

溪流のカジカがピンチ！

神奈川ウォーター・ネットワーク

勝呂 尚之氏



さがみはら  
SDGs  
パートナー

相模原市まち・みどり公社は、  
「さがみはら SDGs パートナー」  
登録団体です。

サガミジョウロウホトトギス  
(ユリ科ホトトギス属)

開花期：9月

神奈川県固有種。環境省と神奈川県レッドリストでは、いずれも絶滅危惧IB類。

「種の保存法」に基づき、人為的影響による減少が特に危惧される「国内希少野生動植物種」にも指定されている。

NHKの朝ドラ「らんまん」でも話題になった‘ジョウロウホトトギス’(別名トサジョウロウホトトギス)は高知県固有種。

(写真提供：相模原市立博物館)

## 外来生物を適切に管理して “グリーン”を生かそう

麻布大学 生命・環境科学部 環境科学科 助教 新田 梢氏

今年の夏も酷暑が続く、アスファルトやコンクリートなどの人工物で覆われた地面の過酷さと、暑さを和らげる木陰や緑のありがたみを感じました。また、豪雨の被害もあり、雨水を溜め、遊水地の役割を担う緑地の機能も注目されています。こうした緑の様々な機能は、近年、「グリーンインフラ」としてこれまで以上に期待されています。

緑地の管理においては外来植物の扱いにも注意が必要です。今年の夏は、相模原市自然環境観察員制度の全体テーマ調査で特定外来生物「オオキンケイギク」の分布調査も行われました。私も参加しましたが、身近な場所でも駐車場や商業施設の手入れが行き届いていないような草地に生えている印象でした。コスモスに似た形の黄橙色の花を咲かせるため、特定外来生物と知らないまま毎年咲く花を見ているかもしれません。令和2年度の調査ではアメリカオニアザミの分布調査も行われ、相模原市東部の平野部を中心に定着が見られました。アメリカオニアザミや市内でも近年よく見られるワルナスビは全体に鋭いトゲがあり、駆除も大変です。

外来生物を適切に管理しながら、私たちのまちや生活空間に土や植物で覆われた緑“グリーン”の空間を増やしていきたいものです。



オオキンケイギク  
[北米原産、特定外来生物]



ワルナスビ [北米原産]  
(茎や中央の葉脈に鋭いトゲがある。  
和名は牧野富太郎博士による。)



アメリカオニアザミ  
[ヨーロッパ原産、生態系被害防止外来種]  
(在来のノアザミ等と違って  
植物体全体に鋭いトゲがある。)



相模原市自然環境  
観察員制度  
についてはこちらから

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社は、相模原市まち・みどり公社が推進する「みどり豊かなまちづくり」に協賛しています。

公益財団法人 相模原市まち・みどり公社は、地域のために活動する自治会を応援しています。

# 野鳥の四季 ～相模原市で出会える野鳥たち

文・写真 渡部 尚久氏  
(元 神奈川県立かながわ農業アカデミー校長)

相模原市には多くの緑地、川や池があり、それぞれの環境に生息する野鳥や、季節ごとに飛来してくる野鳥を観察することができます。天気の良い日には、その野鳥たちに会いに出かけてみませんか。

**【秋】** 冬鳥がまだ飛来していないこの季節は、年間を通して観察できる留鳥をじっくり観察したいものです。

相模川に出てみます。枯れたヨシの実をつついてるのはホオジロです。警戒心が強く、人を見るとチッチと鳴いて飛んでいってしまいます。

川の流れて立っているのはダイサギ。大きな指と細い足で急流でもびくともしません。魚が近くに来るのを待っているのでしょう。

市内の池のある公園に行ってみます。池に突き出した枝にとまっているのはカワセミ。飛ぶ宝石とも言われます。今では河川の浄化が進みいろいろなところで見ることができるようになりました。



**ホオジロ**  
河原などでよく見かけますが、なかなか近寄らせてくれません。



**ダイサギ**  
他の仲間にチュウサギ、コサギがいて、「大・中・小」が一緒に行動することも。



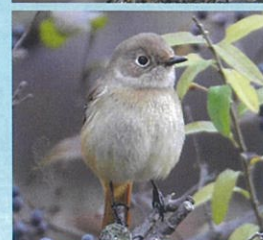
**カワセミ(メス)**  
美しく輝く青い羽が見る人を魅了します。

**【冬】** 冬はバードウォッチングに最適な季節です。落葉樹の葉が落ちて見通しがきくことや「冬鳥」が飛来するからです。

冬の林を歩いてみましょう。林縁部でよく見かけるのは腹部がオレンジ色のジョウビタキです。翼にある白い斑紋から紋付き鳥とも呼ばれます。メスは目立たない色合いですが、オス同様に白い斑紋があり、くりっとした目が人気です。

林の中でヒッヒッと鳴く鳥を発見。瑠璃色のルリビタキ、'幸せの青い鳥'ですね。夏は高い山の森の中で子育てを行い、冬は里に下りて越冬する「漂鳥」です。このほかにもイカルやシメなど、季節的な移動をする野鳥が見る人を楽しませてくれます。

池にも冬鳥のカモ類がたくさん飛来。相模原沈殿池はカモ類の市内有数の越冬地。オンドリ、オナガガモ、ヒドリガモ、コガモなどで賑わいます。



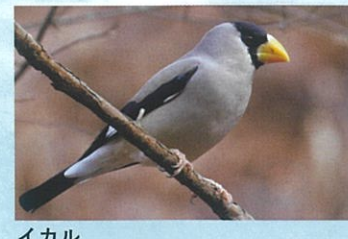
**ジョウビタキ**  
(上オス、下メス)  
公園、農地や市街地などでも見られる「冬鳥」です。



**ルリビタキ(オス)**  
冬季は相模原市内でも結構見られます。



**オンドリ(オス)**



**イカル**  
相模原の林にも群れて飛来する漂鳥です。くちばしが大きいのは固い植物の種子等をくたくため。



**オナガガモ(オス)**



**シメ**  
秋になると繁殖地である本州中部以北や北海道から南下してくる漂鳥です。



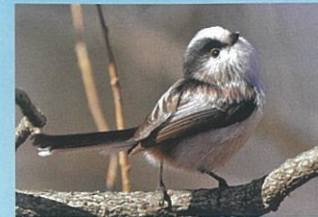
**ヒドリガモ(オス)**

**【春】** 春は子育ての季節です。

林で2羽の尾の長い小さな鳥がコケや鳥の羽をくわえて飛んでいきました。エナガですね。エナガは小さなくちばし、まん丸い目の小さな鳥です。日本では北海道内だけに生息し、雪の妖精といわれているシマエナガと同様に愛らしい小鳥です。

サクラの蜜を吸いに来たのはメジロ。蜜を吸う姿はまるで花見の宴会。人が近づいても気にしている暇は無さそう……。キュルキュルと鳴きながら花から花へ渡っていきます。

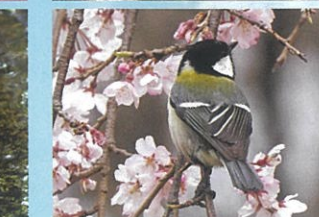
シジュウカラやヤマガラなども子育てにいそしみ、しばらくするとヒナが親を追いかけおねだりする姿も見えます。そんな姿を見るとこちらもほっこり。



**エナガ**  
早春から袋状の巣を作り、10羽前後のヒナが孵ります。巣立ちしたヒナが寄り添う姿は「エナガ団子」と呼ばれます。



**メジロ**  
花の蜜が大好き。水浴びする姿がかわいい。



**シジュウカラ**  
観察しやすい留鳥です。胸腹の黒ネクタイがおしゃれな鳥で、金属音のようなピーピーといった鳴き声も特徴です。



**ヤマガラ**  
カラ類の中では一番人なつこい鳥。向こうから近づいて来て木の上で鳴くこともあります。

**【夏】** 夏鳥が飛来し、秋口まで観察のチャンスです。

少し暗い森でチョットコイと鳴くのはキビタキです。コジュケイの鳴き声の「聞きなし」もチョットコイで有名ですね。

夏鳥にはオオルリ、コルリ、コマドリなどもいますが、里でも観察できるのが、このキビタキ。暗い林でオレンジ色が引き立ちます。夏鳥は、渡りの直後は縄張り宣言や求愛のためのさえずりが目立ちますが、一段落すると鳴き声も収まり盛夏には意外と静かな森が戻ります。



**キビタキ**  
早戸川林道など山間部でよく見られますが、公園でもまれに見られる鮮やかな鳥。

このように相模原市内でも一年中、様々な野鳥を観察することができます。皆さんも、双眼鏡やカメラを持って会いに行ってみてください。鳥たちは環境の変化に大変敏感で、環境が悪化すると途端に飛来しなくなってしまいます。いつまでも鳥たちに会える環境として残っていてほしい……。バードウォッチングを通してそんな気持ちになっていただければ幸いです。



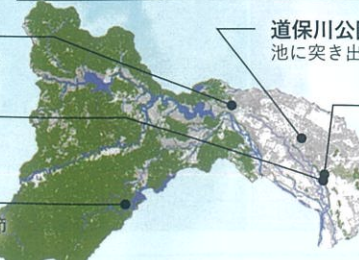
**相模原市の鳥「ヒバリ」**  
空高く舞い上がりホバリングしながらさえずるヒバリ。開けた原っぱや畑など、丈の低い草を好み、地表に巣をつくる草食性の野鳥ですが、草地環境の消失・荒廃と共に減少。東京都レッドリストでは「絶滅危惧II類」にランクされています。

## 市街地にもある身近な探鳥地

**相模原北公園**  
「梅園」では冬鳥のジョウビタキ、「郷土の森」ではやや大型のキツツキ「アオゲラ」(留鳥)など。

**相模原麻溝公園・県立相模原公園**  
ジョウビタキやイカル、カワラヒワのほか、キビタキなどの夏鳥も見られます。

**早戸川林道**  
鳥屋地区の早戸川に沿って開かれた林道で、季節ごとに数多くの種類を観察できるエリアです。



**道保川公園**  
池に突き出した枝にとまるカワセミやルリビタキ、冬鳥のジョウビタキなど。

**相模原沈殿池「かながわの探鳥地50選」**  
水鳥の観察地として有名。オンドリなど多くの種類のカモ類が冬鳥として飛来します。

**東林ふれあいの森(つま自然の森)**  
「かながわの探鳥地50選」  
相模原市と大和市の市境域にある緑地です。まち・みどり公社 市内の公園案内





# 溪流のカジカがピンチ！

文・写真 神奈川ウォーター・ネットワーク 勝呂 尚之氏（農学博士）

丹沢を流れる清流には、淡水魚のカジカと両生類のカジカガエルがいます。いわゆる「鳴く」のは、カジカガエルの方です。カジカは頭が大きくて愛嬌のある魚で、キャンプ場では子どもたちの遊び相手として人気があります。かつては、相模川の上流や支流のどこにでもいる普通種でしたが、現在では神奈川県で絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。その主な要因は、大型の台風やゲリラ豪雨の頻発で川底に土砂が大量に流入したことです。カジカの住み家は、頭大から拳大の石と石が重なり合った隙間である「浮き石」がたくさんある場所で、産卵も石の下で行います。また、カジカの餌となるカゲロウやトビケラなどの水生昆虫も「浮き石」が必要で、これらの減少も大きなダメージとなっています。

さらに、最近の丹沢の渓流域には、ブラウントラウトなどの国外外来魚に加え、カワムツなど、西日本から侵入した国内外来魚も多くの支流から採集されており、カジカの稚魚が食害されたり、餌や住み家が奪われるなどの影響が出ています。

ところで、川の生き物観察会で子どもたちからよく出る質問があります。横から見るとよく似ているカジカとハゼ類（写真はヌマチチブ）の見分け方についてです。この2種には下（腹側）から見ると決定的な違いがあります。

ハゼ類には、左右の腹びれが一体化した大きな吸盤がありますが、カジカには吸盤が無く、腹びれがはっきりと二つに分かれています。

カジカとその生息環境を守るためには、地球規模の環境問題の解決というグローバルな対応が必要ですが、まずは、カジカがいる丹沢の小さな川をのぞいて見てください。そして、希少な生物が生息できる沢を守るアイデアについて一緒に考えていきましょう。



カジカ：愛嬌のある魚だが、生息地は減少している。



左) 国外外来魚 ブラウントラウト



右) 国内外来魚（西日本産）のカワムツは県内各地で増加



ヌマチチブ（ハゼ類）



ハゼ類のヌマチチブには吸盤があるが（右上）、カジカには吸盤が無く、腹びれが二つに分かれています（右下）。



## 緑の募金運動のお願い

### 緑の募金運動とは？

「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき、全国で実施されている募金運動です。集められた募金は、県内・市内の森林整備活動や緑化の推進、被災地域の復旧・復興などに活用されます。

### 募金方法は？

（公財）相模原市まち・みどり公社までご連絡ください。振込用紙などをお送りします。  
042-751-6624（みどり推進課）



相模原市まち・みどり公社が推進する「みどり豊かなまちづくり」を応援しています

広告



広告



お庭のお手入れや  
緑化工事など、  
お気軽にご相談ください。

相模原  
造園協同組合

<http://www.sagamihara-zouen.jp/>  
TEL : 042-773-8977 FAX : 042-773-5051

2023年9月1日発行／編集・発行者・発行所：〒252-0236 相模原市中央区富士見6-6-23 公益財団法人 相模原市まち・みどり公社  
TEL : 042-751-6623 FAX : 042-751-2345

本紙に対するご感想、ご意見をお寄せください。ホームページにもぜひアクセスを… <https://www.sagamiharashi-machimidori.or.jp>